

【学校研究5 学年まとめ】

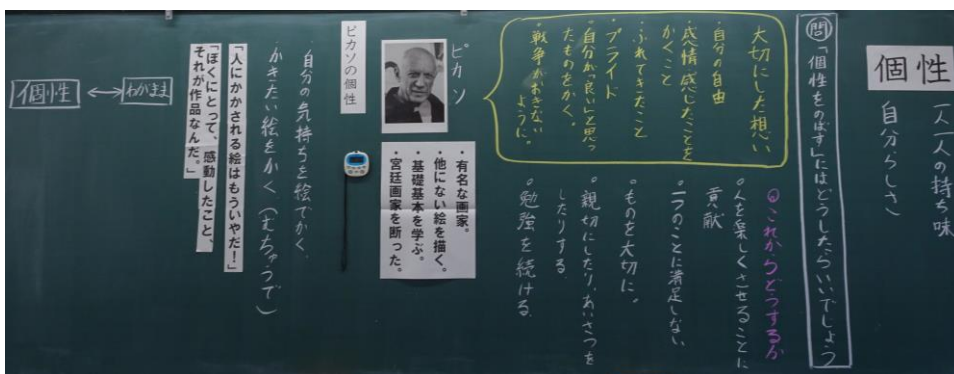
平成31年2月22日

1. 学年の取組

- ・ 学級内では、児童同士が認め合い、互いに自信を持てるように、各教科の中でグループで意見を交流させたり、話し合ったりする場を設定している。また、毎月自分の目標を立てさせ達成させるようにしたり、行事ごとに目標を持ち、振り返りをしたりしてできるようになったことに目を向けることを指導している。学年掲示板で、行事むけてのめあてを掲示したり、活動の様子を写真で知らせたりすることで、お互いのよさを認め合えるようにする。
- ・ 道徳的価値へより深く迫るために、問題解決が中心の学習を展開する。
- ・ 毎時間、ワークシートを作成し、問題に対しての答えを見つけさせたいうで、自分のことについて振り返る時間を確保する。

2. 授業実践について

主題	内容項目【A 個性の伸長】
本時のねらい	自身の良さを伸ばすことについて教材の人物の生き方を考え、話し合う活動を通して、自分の長所を大切にし、よりよく伸ばそうとする態度を育てる。
教材名	感動したこと、それがぼくの作品～パブロ・ピカソ（出典「新しい道徳5」東京書籍）
授業者	5年2組 小谷野 裕太



【授業の流れ】

- ①心の鏡アンケート結果をみる。
- ②問題『「個性を伸ばす」にはどうしたらいいでしょう。』を設定し、ねらいとする価値への方向付けをする。
- ③ピカソについて知っていることを出し合い、紹介を聞き、話を読む。
- ④ピカソの個性が感じられるところを出し合う。
- ⑤ピカソの個性から「わがまま」ではないのか、「わがまま」と「個性」の違いは何かと考える。
- ⑥ピカソが個性を伸ばすために大切にしたい思いは何か話し合う。
- ⑦自分の個性を探し、今後どう伸ばしていくか考える。
- ⑧教師の説話を聞く。

本時では、『個性を伸ばす』にはどうしたらいいでしょう。』という問題で本時の学習を行い、ピカソの生き方を通して、どうすることが「個性を伸ばす」ことに繋がるのかと、友達同士で話し合うことにより、多角的に考えを深めていく。基本を身に付けたうえで、自分自身のよさをひたむきに信じ続けることが個性を伸ばすこと、そして自己肯定感を高めていくと考えさせ、自分の良い面の個性を伸ばそうとする心情を育てようとした。



児童の振り返りより

- ・自分の個性は、続けることです。これからチャレンジしたいことがあったら、できなくても、あきらめなくて、続けていきたいです。
- ・人に言われてやるのではなく、自分が思ったことをすればいい。
- ・先の事を考えて行動する。(この事を)何回もやって個性を伸ばしていく。
- ・目標を立てたら、それを必ずできるように努力するところ。これからは立てた目標よりも更に、上へいけるようにしたい。

研究協議より

視点1・問題解決型学習についての工夫

- ・学習問題の立て方が難しい。学習問題や発問の中の「言葉」選びが重要ではないか。
「わがまま」「個性」という言葉は本文中にはない言葉。
- ・「問題」という提示の仕方は適切かどうか。
- ・学習課題を与え、最終的に『今後、こうしていけばよい。』を見つけることが大切。

視点2・後半の価値へのせまり方

- ・長所だけでなく、『短所も含めて個性』という部分が弱かった。もっと「わがまま」などマイナスのところに共感させてもよかった。
- ・議論する道徳では中心発問を投げかけ、みんなで考え、お互いの考えを共有することで、多面的・多角的なものの見方をさせることがポイント。
そこで、考えを深めさせるために必要となってくるのが、教師による出てきた意見への切り返しである。

3. 成果と課題

○道徳コーナーを設けることで、見やすい板書を意識できるようになった。

○問題解決学習を取り入れたことで、価値や話し合うテーマがはっきりと明確になった。何を学習しているのかが、わかりやすかった。

▼問題解決型について研究の余地がある。

▼教材によって、展開の形を変えていくことが重要。教材にあった展開方法を考えなくてはいけない。

▼児童の話し合う力、教師の切り返しの力もつけていきたい。